



# 防災だより

社会福祉法人

八重瀬町社会福祉協議会

八重瀬町字東風平1318-1

電話 : 998-4000

ファクス : 998-8999

社協HP

<http://www.yaeshakyo.com/index.html>

～ 地域福祉等推進特別支援事業 ～

さいがい つよ やえせちょう めざ

災害に強い八重瀬町を目指して！

へいせい

ねんど

しらかわ

ひなんくんれん

## 平成24年度 白川ハイツ避難訓練



じぶん

ちいき

じぶん

まも

### ～自分たちの地域は自分たちで守る～

ひとたび大規模な災害が発生したときには、公的機関の対応「公助」だけでは限界があるため、住民一人ひとりが自らの身を守る「自助」とともに、普段から顔を合わせている地域や近隣のひとびとが互いに助け合う「共助」が欠かせません。

そこで今回は、地域住民の防災意識の啓発や、災害時要援護者の見守り支援体制を推進し、災害にも強い地域づくりを目的に避難訓練を実施しました。

# 平成24年度 白川ハイツ避難訓練の実施

にち じ へいせい ねん がつ か にち ごぜん じ  
 日 時：平成25年3月24日（日）午前10時～  
 ば しょ しらかわ じ ち かいかん じ ち かいひろば ちゅうおうこうえん  
 場 所：白川ハイツ自治会館、自治会広場、中央公園  
 たいしょうしゃ しらかわ じゅうみん  
 対象者：白川ハイツ住民  
 ないよう ひなんくんれん  
 内 容：①避難訓練

ぼうさいこうわ かてい ぼうさい かさいたいさく  
 ②防災講話「家庭での防災・火災対策について」

こう し しみんぼうさい きんじょう まさかつ し  
 講 師：市民防災アドバイザー 金城 正勝 氏



① 訓練開始前のセレモニーであいさつをする  
 八重瀬町社会福祉協議会 神谷榮助会長



② 白川ハイツ自治会 山内平三郎会長  
 白川ハイツは、八重瀬町で初めて自主防災組織を立ち上げました。



③ 災害時要援護者の避難呼びかけ、避難支援を  
 近隣住民の方に行ってもらいました。



④ 防災倉庫の備品搬出シュミレーション



⑤ 車イスの方も積極的に参加してくれました。



⑥ 避難呼びかけを聞いて、住民の方々が避難所へ移動して  
 きました。



⑦ 避難所では班ごとに整列し、班長が安否確認の点呼を行いました。



⑧ 白川ハイツ育成会によるカレーの炊き出しも行われました。



⑨ 防災倉庫に整備されている備品を活用し、負傷者の搬送訓練を行いました。



⑩ 保健師さん、地域のボランティアによる応急手当のデモンストレーションを行いました。



⑪ 講師：市民防災アドバイザー 金城 正勝 氏



⑫ 避難訓練後の防災講話、みなさん真剣に聞いてます。

### ～事務局より～

東日本大震災での死亡者数約2万人のうち、65歳以上が54.4%、障がい者の死亡率は健常者の2.5倍だったということからも、高齢者・障がい者が災害弱者であり、行政の助けが来る前の早期の支援が重要だと言えます。そこで今回の避難訓練では、災害時要援護者の避難支援を重点におき、白川ハイツ自治会と計画を進めました。

今回は障がいのある方3名へ事前に参加確認を行い、近隣住民、自衛消防隊員へ避難呼びかけ・避難支援の協力をお願いしました。障がいのある方にも積極的に参加してもらうことで、災害時にはどのような支援を必要としているのかを近隣の方に知ってもらい、支援体制づくりにもつながっていくと思います。

「災害時に頼りになるのは、遠い身内より近くの他人！」日頃からお互いが顔の見える関係づくりをしておくことが災害に強いまちづくりの第一歩です。

## 『白川ハイツ避難訓練アンケート』集計結果

対象者：白川ハイツ避難訓練参加者

結果：配布数・・・80部 回収・・・12部 回収率・・・15%

### 訓練後の感想、意見

- 40歳代 ・自分の事でいっぱいでしたが、周りの方が年を取った方が多かったので、ビックリでした。大人は多かったのですが、子供の数が少ないと思うので、もっと訓練が必要だと思いました。
- 50歳代 ・自治会館からの放送が全く聞こえない、何を言っているのか分からないという声が多く聞かれたので、早めに改善してもらいたい。中央広場を集って、それから自治会館に集まるのは少し大変な人も多いかなーと思った。
- 50歳代 ・今日は良い訓練になりました。今後は防災対策のバックも準備して持って来るようにしたいと思いました。
- 50歳代 ・訓練を年1～2回ぐらいはしたい。
- 60歳代 ・連絡系統を訓練する必要がある。
- 60歳代 ・自分自身、訓練だと思って緊張感がなく、集合場所へもゆっくり歩いていた。着いてからもお互いにおしゃべりしたりが多かったように見えた。自治会館での講話は良かった。起こったことと思って、各自が真剣になって行動するように事前にもっと強く指導する必要があるのでは・・・と自分自身の反省も含めて。ガス、電気、戸締りは？ 非常用品、飲食物を持参したか等のチェックを挙手でもやった方が良いのでは？と思う。
- 60歳代 ・避難場所やストレッチャーの使用を体験できてよかったです。
- 60歳代 ・年2回ほどしないと身につかない。救護用具の使用法の訓練や、救護用具の場所避難場所の習熟等の為にも、白川ハイツのみでも実施の必要がある。本日はスムーズな訓練ができた。
- 70歳代 ・今日の訓練は大変意義あるものであったと思います。これからも3年に1度ぐらいは行って住民生活の1つに持って行ったらいいと思います。入居して35年も過ぎて、お互いに歳を重ねたなあと思っています。体を動かす事も大切だと思いました。
- 80歳代 ・広報がはっきりしない

### 〈白川ハイツ避難訓練アンケート集計結果より〉

「家庭で防災対策をしているか？」との問いに、「している」と答えた方は、12名中わずか2名で、残りの10名は「していない」と回答。「どのような対策をしているか」では、煙探知機・消火器を設置しているとのことでした。

東日本大震災後、ホームセンターなどでは防災グッズコーナーが設置されていますが、家具の固定など転倒防止策を行っている家庭は、まだまだ少ないように思います。今回の避難訓練後に行われた防災講話では、家具の固定方法についても取り上げられました。これを機に転倒防止策を行う家庭が増えることを期待します。また、本会でも広報などを通して、転倒防止策の重要性を周知していきたいと思っています。

# 平成24年度 小学生防災研修会の開催

目的： 防災への知識を習得し、いざ災害が発生した時に「自分たちに何ができるのか」また、「日頃から何を準備しておくとういよか」を学び、助け合いの関係づくりを構築する事を目的に開催しました。

日時：平成24年7月31日（火）午前10時～

参加者：町内の小学生13名

- 内容：①ボランティアについて  
 ②皆で楽しく防災体験  
 新聞紙でスリッパ作り、毛布で担架、津波の紙芝居  
 ③沖縄市防災センターにて研修  
 ④地域福祉（活動）計画について



紙芝居「津波だ！いなむらの火をけすな」を参加した小学生に朗読してもらいました。



毛布を担架代わりにして、ケガ人の搬送体験をしました。



参加者全員が震度3～震度7の揺れを体験しました。



自分たちの住んでいる地域について、困っていること、改善してほしいことなどを話し合いました。

# 平成24年度 中・高校生防災研修会の開催

目的： 近年、日本国内外で自然災害が頻繁に起こり、多大なる被害をもたらしています。  
 去年の3月にはマグニチュード9.0を記録した世界最大級の東日本大震災が発生し、  
 地震や津波などにより東北地方を中心に広範囲に及ぶ甚大な災害をもたらしました。  
 そこで、本研修会では、防災への知識を習得し、いざ災害が発生した時に、「自分  
 たちに何ができるのか」また、「日頃から何を準備しておくとよいか」を学び、助け合  
 いの関係づくりを構築することを目的に開催しました。



日時：平成24年8月2日（木）午前10時～  
 参加者：町内に在する中学校・高校の生徒  
 内容：①ボランティアについて  
 ②講話「東日本大震災あの時・・・  
 みんなに伝えたいこと」  
 講師：大橋文之氏、桜井哲也氏  
 ③沖縄市防災センターにて研修  
 ④地域福祉（活動）計画について  
 ⑤防災クイズ&クロスロードゲーム



東日本大震災当時、福島第1原発で作業をしていた大橋さんと、福島県で被災した桜井さんに震災当時の状況をお話ししてもらいました。



被災者の生の声を聞くことで「沖縄に住んでいる自分たちが、今できることは何か」など、被災地や被災者、防災について、より真剣に考えるきっかけになりました。



沖縄県に一台しかない地震体験機で、震度3～震度7の揺れを体験しました。

# 地震から身を守る 10のポイント！



## 1. グラッときたらまず、身の安全

み あんぜん  
らっかぶつ ぶせ ばしょ かく み  
落下物を防げる場所に隠れて身をまもります。



## 2. 火の始末をする

しまつ  
ひ け もとせん む  
火を消す、ガスの元栓をしめる、コンセントを抜くなど  
つか ちょうりようぐ とくせい し  
使っている調理用具の特性を知っておきましょう。



## 3. ガラスの破片に注意！

は へん ちゅうい  
らっか こわ あと はだし ある あつで  
モノが落下して壊れた後は、裸足で歩かず、厚手のスリッパや  
うんどうぐつ は こうどう  
運動靴を履いて行動しましょう。

## 4. 窓や戸を開け、避難口の確保を

まど と あ ひなんぐち かくほ  
おお じしん と まど あ  
大きな地震では戸や窓がゆがんで開かなくなることがあるので、  
と あ たいしょ  
すぐに戸を開けるなどの対処をしましょう。



## 5. 電話は地震後すぐに最小限に

でんわ じしんご さいしょうげん  
じしん ゆ でんわ つな ばあい  
地震の揺れがおさまってすぐは電話が繋がる場合がありますが、  
じかん けいか つな  
時間が経過するにつれ繋がりにくくなりますので、  
さいがいようでんごん かつよう  
災害用伝言ダイヤル・スカイプなどを活用しましょう。



## 6. 外に逃げる時は慌てない

そと に とき あわ  
じしん ゆ ぶんでいど おお しゅうい じょうきょう たし こうどう  
地震の揺れは1分程度でおさまることが多いので、周囲の状況を確かめてから行動し  
ましょう。

## 7. ブロック塀や電柱、屋根瓦の落下に注意！

いどうじ よしん ばあい うえ なに お わ  
移動時、余震がおきた場合、上から何が落ちてくるか分かり  
らっか ちゅうい こうどう  
ません。落下するようなものがないか、注意して行動しま  
でんせん ちか きほん  
しょう。『電線には近づかない』なども基本です！  
いえ ちか ひろば こうえん あんぜん かくほ  
また、家の近くの広場・公園など、安全が確保されやすい  
ばしょ しら  
場所を調べておきましょう。



8. 隣近所と連携して、救出・救護を!  
となりきんじょ れんけい きゅうしゅつ きゅうご  
となりきんじょ あんぴかくにん きょうりょく どうかいかおく てんとうか く したじ  
 隣近所の安否確認をして、協力して倒壊家屋、転倒家具の下敷きになっ  
きゅうしゅつ しょうかつどう  
 ている人の救出・消火活動にあたりましょう。



9. 自宅を離れる場合は電気・ガスの安全確認  
じたく はな ばあい でんき あんぜんかくにん  
でんき お もとせん  
 電気のブレーカーを落とす、ガスの元栓を  
ろうでん も に じさいがい  
 しめる。漏電・ガス漏れでの二次災害を  
ふせ  
 防ぎます。



10. 情報収集をしましょう!  
じょうほうしゅうしゅう  
じしん あと よしん かおく とうかい おそ  
 大きい地震の後は、余震で家屋が倒壊する恐れもあります。また、  
とだ しょくりょうひん みず て はい  
 ライフラインが途絶えると食料品や水などが手に入りにくくなります。  
じょうほうしゅうしゅう  
 ラジオなどで情報収集をしましょう。



## 地震に対する“心構え”と“備え”

じぶん りかい なに かぞく はな あ たいせつ  
 自分だけが理解していても何なりません! あらかじめ家族で話し合っておくことが大切  
ひる よる ね とき じしん お そうてい  
 です。昼と夜、寝ている時などに地震が起きたとき、それぞれのパターンを想定しておき  
 ましょう。

1. いえ なか あんぜん かくにん きょうつういしき も  
 家の中ではどこが安全か確認し、共通意識を持つ。
2. ひなんばしょ ひなんつうろ てっぺいかくにん  
 避難場所や避難通路の徹底確認。  
そうてい おこな  
 ※いくつかのパターンを想定して行いましょう。
3. はな とき かぞくかん れんらくほうほう しゅうごうばしょ き  
 離れた時、家族間の連絡方法や集合場所を決めておく。
4. こ としよ ひなんほうほう き  
 子ども、お年寄りの避難方法を定める。
5. ひじょうじもちだしぶくろ お だれ なに も  
 非常時持出袋をどこに置くのか、誰が何を持って  
き  
 いくのかを決める。

あらかじめ  
**家族で**  
 話し合っておこう

避難場所の  
 確認

